

## 障害程度区分・二次判定参考資料の作成について

障害程度区分判定は、本年4月から各市町村において行われているところであるが、今般、昨年の障害程度区分判定等試行事業の実施自治体（協力自治体）から実際に判定が行われた事例を収集し、今後の二次判定の参考となるよう、下記のとおり参考資料としてとりまとめたので、情報提供する。

### ① 一次判定結果と二次判定結果が一致した事例をとりまとめたもの

「障害程度区分状態像の例」：各障害程度区分ごとの認定調査項目（106項目）のチェック状況の例

協力自治体において最終的に区分判定がなされた事例について、統計学的処理を用いてチェック状況に共通性のある事例をグループ化し、その中から典型的な例を抽出した。

### ② 二次判定において区分が上方修正された事例をとりまとめたもの

「二次判定変更事例集」：二次判定において区分が上方修正された事例協力自治体から収集した事例のうち二次判定において区分が上方修正されたケースの中から、専門家の意見を聞きつつ、次の視点から選定した。

- ・ 二次判定において、一次判定では考慮されていない、①特記事項、②医師意見書記載内容、③一次判定で考慮していない項目群の内容から、妥当性があると判断される理由をもって障害程度区分基準時間をより長く要すると判断される事例
- ・ 試行事業の結果から作成し、既に公表している「区分変更の例」にない事例
- ・ 自治体等から「判断が困難である」等の指摘がなされている事例  
＜身体障害＞聴覚障害、内部障害 等  
＜知的障害＞行動障害、自閉症 等  
＜精神障害＞症状の不安定例、統合失調症陰性症状例 等

※ なお、この参考資料は、実際に判定された事例を収載したものであり、記載内容が必ずしも十分でない場合等も含めて情報提供していることに留意されたい。

また、現時点で収集できたデータに基づく資料であり、今後、さらにデータ収集等を進めていくこととしている。

<障害程度区分状態像の例の掲載内容について>

- ・ 事例番号は、障害種別、二次判定区分ごとに、A、B と番号を振っている。  
例：身体○A、身体○B
- ・ 事例番号の下には、二次判定区分、プロセスⅡ区分、プロセスⅠ区分を表示している。
- ・ 区分の下には、プロセスⅠにかかる障害程度区分基準時間を表示している。
- ・ 障害程度区分基準時間の下には、106 の認定調査項目について、群ごとに、チェック状況及び中間評価項目点数を載せている。











障害程度区分状態像の例

区分6

事例番号		身体6A	身体6B	知的6A	知的6B
2次指定		区分6	区分6	区分6	区分6
プロセスII		区分6	区分6	区分6	区分6
プロセスI		区分6	区分6	区分6	区分6
障害程度区分基準時間		134.0分	128.1分	130.0分	133.5分
食事		51.5分	3.1分	51.5分	40.8分
排せつ		18.7分	27.3分	18.0分	18.0分
移動		16.0分	12.1分	16.9分	16.9分
清潔維持		18.5分	24.9分	19.2分	11.2分
服装		10.0分	8.8分	14.3分	10.0分
行動		0.1分	0.1分	0.1分	20.3分
機能訓練		0.4分	4.7分	2.2分	2.2分
医療関連		20.5分	47.1分	7.1分	13.5分
麻痺拘縮					
1-1		麻痺(左-上肢)	ある	ある	
		麻痺(右-上肢)	ある	ある	
		麻痺(左-下肢)	ある	ある	
		麻痺(右-下肢)	ある	ある	
		麻痺(その他)	ある	ある	
1-2		拘縮(肩関節)	ある	ある	
		拘縮(肘関節)	ある	ある	
		拘縮(股関節)	ある	ある	
		拘縮(膝関節)	ある	ある	
		拘縮(足関節)	ある	ある	
		拘縮(その他)	ある	ある	
中間評価項目点数		0.0	0.0	100.0	100.0
移動					
2-1		寝返り	できない	できない	つかまれば可
2-2		起き上がり	できない	できない	つかまれば可
2-3		座位保持	できない	自分で変えれば可	支えが必要
2-4		両足での立位	できない	できない	支えが必要
2-5		歩行	できない	できない	つかまれば可
2-6		移乗	全介助	全介助	一部介助
2-7		移動	全介助	全介助	一部介助
中間評価項目点数		0.0	10.0	47.8	16.9
履鞋動作					
3-1		立ち上がり	できない	できない	つかまれば可
3-2		片足での立位	できない	できない	できない
3-3		立身	行っていない	全介助	全介助
中間評価項目点数		0.0	5.0	15.0	15.0
特別介護					
4-1		入浴介護	ある		ある
4-2		食事介護	見守り等	できない	見守り等
4-3		飲水	全介助	全介助	全介助
4-4		排泄	全介助	全介助	全介助
4-5		服装	全介助	全介助	全介助
4-6		移動	全介助	全介助	全介助
中間評価項目点数		9.4	13.7	21.2	18.9
身の回り					
5-1		口腔清潔	全介助	全介助	全介助
5-2		洗面	全介助	全介助	全介助
5-3		髪髪	全介助	全介助	全介助
5-4		爪切り	全介助	全介助	全介助
5-5		上衣の着脱	全介助	全介助	全介助
5-6		ズボン等の着脱	全介助	全介助	全介助
5-7		履物の着脱	全介助	全介助	全介助
5-8		身の回りの整理	全介助	全介助	全介助
5-9		電話の使用	全介助	全介助	全介助
5-10		日常の意思決定	できない	できない	できない
中間評価項目点数		0.0	0.0	0.0	0.0
意思疎通					
6-1		聴力		判断不能	判断不能
6-2		聴力		大声が聞える	判断不能
6-3		意思の伝達	できない	できない	できない
6-4		指示への反応	できない	通じない	通じない
6-5		相手の言葉理解	できない	通じない	通じない
6-6		相手の目を見て話す	できない	できない	できない
6-7		短期記憶	できない	できない	できない
6-8		自分の名前をいう	できない	できない	できない
6-9		今の場所を説明	できない	できない	できない
6-10		場所の理解	できない	できない	できない
中間評価項目点数		28.8	1.4	33.4	0.0
行動					
7-1		被害的			
7-2		作話			
7-3		幻覚幻聴			
7-4		感情が不安定			
7-5		昼夜逆転			
7-6		暴言暴行			
7-7		同じ話を繰り返す			
7-8		大声を出す			
7-9		介助に抵抗			
7-10		作話の理解			
7-11		落ち着かない			
7-12		外出して戻れない			
7-13		1人で出かける			
7-14		夜間徘徊			
7-15		火の不始末			
7-16		物や衣服を壊す			
7-17		不潔行為			
7-18		異常行動			
7-19		ひどい物忘れ			
中間評価項目点数		100.0	100.0	81.7	14.4
特別な医療					
8-1		薬物の管理			
8-2		中心静脈栄養			
8-3		透析			
8-4		AI-1の処置			
8-5		経気管挿管			
8-6		レキドール			
8-7		気管切開の処置			
8-8		尿嚢の管理			
8-9		経胃栄養			
8-10		モニター測定			
8-11		じょうろうの処置			
8-12		BT-1A			
日常生活					
9-1		調理	全介助	全介助	全介助
9-2		食事の配下種	全介助	全介助	全介助
9-3		掃除	全介助	全介助	全介助
9-4		洗濯	全介助	全介助	全介助
9-5		入浴の準備片付け	全介助	全介助	全介助
9-6		買い物	全介助	全介助	全介助
9-7		交通手段の利用	全介助	全介助	全介助
B2項目群					
7-1		二たわり			
7-2		多動・行動停止			
7-3		不安定な行動			
7-4		自ら叩く等の行為			
7-5		他人叩く等の行為			
7-6		興奮等による行動			
7-7		過激な声			
7-8		攻撃的行動			
7-9		破壊的行動			
C項目群					
6-3		独自の意思伝達	できない	できない	できない
6-4		説明の理解	できない	できない	できない
7-1		過激・反する等			
7-2		安眠で夜間的			
7-3		対人への不安緊張			
7-4		言葉が通じない			
7-5		話がまとまらない			
7-6		集中力が続かない			
7-7		自己の過去詳細			
7-8		短い強制的な			
7-9		文字の複写的複製			



<二次判定変更事例集の収録内容について>

- 事例番号は、二次判定区分ごとに、番号を振っている。  
例：区分○事例○
- 各事例の最初のページ（事例番号が大きく書かれているページ）には、事例の概要を載せている。
  - プロセスⅡ区分 → 二次判定区分
  - 障害程度区分の有効期間
  - 審査及び判定の概要（障害の概要、二次判定での判断の概要）
- 各事例の市町村審査会資料、特記事項、医師意見書、概況調査票を載せている。
- 市町村審査会資料の左下には、IADL スコア、行動障害スコアも表示している。（算出方法は次ページ）

## IADLのスコア、行動障害のスコアの算出

表1 IADLスコア表

調理(献立を含む)	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
食事の配膳・下膳(運ぶこと)	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
掃除(整理整頓を含む)	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
洗濯	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
入浴の準備と後片付け	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
買い物	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0
交通手段の利用	できる	0	見守り・一部介助	0.5	全介助	1.0

※各項目の点数を総計した点数について、7点満点(全項目が全介助)を6点満点に置き直して再計算した結果値をスコアとする。

表2 行動障害スコア表

泣いたり、笑ったりして感情が不安定になる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
暴言や暴行	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
しつこく同じ話をしたり、不快な音を立てる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
大声をだす	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
助言や介護に抵抗する	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
目的もなく動き回る	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
「家に帰る」等と言い落ち着きがない	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
1人で外に出たがり目が離せない	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
いろいろなものを集めたり、無断でもってくる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
物や衣類を壊したり、破いたりする	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
特定の物や人に対する強いこだわり	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				
多動または行動の停止	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
パニックや不安定な行動	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
自分の体を叩いたり傷つけるなどの行為	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
叩いたり蹴ったり器物を壊したりなどの行為	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
他人に突然抱きついたり、断りもなく物を持ってくる	ない	0	希にある	0.25	月に1回以上	0.5	週に1回以上	0.75	ほぼ毎日	1.0
環境の変化により、突発的に通常と違う声を出す	ない	0	希にある	0.25	週に1回以上	0.5	日に1回以上	0.75	日に頻回	1.0
突然走っていなくなるような突発的行動	ない	0	希にある	0.25	週に1回以上	0.5	日に1回以上	0.75	日に頻回	1.0
再三の手洗いや、繰り返し確認のため、日常動作に時間がかかる	ない	0	ときどきある	0.5	ある	1.0				

※各項目の点数を総計した点数について、19点満点(全項目が最高点)を6点満点に置き直して再計算した結果値をスコアとする。

障害程度区分二次判定変更事例集（平成18年8月24日）目次

事例番号	概要	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定	変更事由	ページ
区分2 事例1	<p>■統合失調症を発症し、強迫観念がある事例。</p> <p>■脅迫症状が強く家事等日常生活面で支障が生じており、同症状により行動がスムーズに行えず買い物や家中の清潔などに日常生活に関する支援に加え、強迫観念に伴う頻回の同様の行動への対応等介護に時間を要することを特記事項及び医師意見書から判断し、区分2に変更した。</p>	1	1	2	特記事項 医師意見書	15
区分2 事例2	<p>■統合失調症を発症した事例。</p> <p>■幻覚・妄想、意思疎通性に乏しい、判断能力に乏しい等の残遺症状があり、身辺整理、清潔の保持等が困難であることを、また、判断能力に乏しいことや環境刺激で状態が不安定になることから、日常生活維持のための支援や自発的行動が可能な際の促しとフォロー、判断が困難な際のサポートなど介護時間を長く要することを特記事項及び医師意見書から確認し、区分2に変更した。</p>	1	1	2	特記事項 医師意見書	23
区分2 事例3	<p>■統合失調症を発症し、糖尿病を合併した事例。</p> <p>■下着を1週間交換しないなど日常生活面での支障があることに加え、糖尿病の管理が不良で、摂食上の注意等合併症に伴う支援が必要であることなどを特記事項及び医師意見書から判断し、区分2に変更した。さらに精神症状と糖尿病の不安定性から有効期間を1年とした。</p>	1	1	2	特記事項 医師意見書	31
区分3 事例1	<p>■重度の知的障害に聴覚障害を併せ持つ事例。</p> <p>■難聴と知的障害のためコミュニケーションに重い障害があり、また、日々の生活の中の様々な場面でこだわりが認められ見守りや促しが必要である等、より長い介護時間を要すると判断し、区分3に変更した。</p>	1	2	3	B2・C項目群	38
区分3 事例2	<p>■重度の知的障害で、ほぼ毎日夕食後、3時間程度不安定になり、自傷、奇声など行動障害が見られる事例。</p> <p>■飲水量が多く、過食傾向もある。あわせて、聴覚過敏もあり、支援に配慮が必要なことから、介護時間が長くなると判断し、区分3に変更した。</p>	2	2	3	特記事項 医師意見書 B2・C項目	46
区分3 事例3	<p>■中度の知的障害、広汎性発達障害で、統合失調症を併発している事例。</p> <p>■構音障害、吃音のコミュニケーションに障害があり、そのため被害妄想を抱くなど精神症状も不安定で介護を拒む場面もみられる。これらに対応することから、介護時間が長くなると判断し、区分3に変更した。</p>	2	2	3	特記事項 医師意見書 B2・C項目群	54
区分3 事例4	<p>■パニック障害とアルコール依存症の事例。</p> <p>■現在断酒を続けているが、アルコールに対する精神依存が引き続きみられることに伴う対応を要すること、対人恐怖が強く、頻回に動悸、胸苦、過呼吸を伴うパニック発作が出現し、外出困難となること、しばしば食事摂取も困難となるなど、状態悪化時のサポートを要すること、身辺の世話の必要な時に援助を求めることが困難であり、指示や声かけ、見守りなどを要し、より長い介護時間を要することを特記事項及び医師意見書から判断し、区分3に変更した。</p>	2	2	3	特記事項 医師意見書	61
区分3 事例5	<p>■気分変調症を発症した事例。</p> <p>■特記事項及び医師意見書から症状の不安定性があり、入浴は自らの決意では10日に一度がやっとであるなど日常生活面での支障が大きいこと、昼夜逆転がみられ、夜間における支援を要すること、不安定な状態になると暴言や大声を出すなど行動上の障害も顕著であり、こうした状況への対応が必要なこと、また、希死念慮もみられ、こうした状況下での対応を要することなど、より長い介護時間を要すると判断し、区分3に変更した。</p>	1	1	3	特記事項 医師意見書	69
区分4 事例1	<p>■重度の知的障害と心因反応症状のある事例。</p> <p>■あせりや脅迫的な状態にあるとき興奮し物を投げたり奇声を発したり蹴ったりする。スケジュールや支援者に対する強いこだわりなどもあることから、介護に時間が長くなると判断し、区分4に変更した。</p>	3	3	4	特記事項 医師意見書 B2・C項目群	76
区分4 事例2	<p>■中度の知的障害、反復性うつ病で、不快気分が著しい時に易怒的で興奮状態となる事例。</p> <p>■グループホームで、世話人のちょっとした話しかけを曲解したり、自分の思いが受容されないと包丁を振り回したり、謝るまで許さないため、世話人が何人も退職する状況があり、さらに昼夜逆転による引きこもりも月1回程度ある。これらに対応し、また本人の訴えを傾聴し本人に分かりやすい支援を行う必要があることから、介護時間が長くなると判断し、区分4に変更した。</p>	2	2	4	特記事項 医師意見書 B2・C項目群	84

事例番号	概要	プロセスⅠ	プロセスⅡ	2次判定	変更事由	ページ
区分4 事例3	<p>■統合失調症を発症した事例。</p> <p>■部屋から一歩も出ることができない、風呂に何年も入っていないなど身の回りのことは全くできない（姉が実施）など、日常生活面での積極的な支援を要すること、行動上の障害も著しく、粗暴行為もみられる、こうした状態への支援を要することなど、より長い介護時間を要することを特記事項及び医師意見書から判断し、区分4に変更した。</p>	3	3	4	特記事項 医師意見書	91
区分4 事例4	<p>■当初うつ病と診断され、後に統合失調症と診断された事例。</p> <p>■B2・C項目群、特記事項、医師意見書から引きこもり状態であり、また、洗髪、歯磨きなど身の回りのことが全くできていないなど身近な世話に関する対応に加え、飲酒、過食が著しく飲食面での管理に関する支援を要すること、ほぼ毎日一日中泣いている等情緒不安定がみられ、こうした状況へのサポートを要すること、昼夜逆転もあり夜間対応を要することなど、より長い介護時間を要すると判断し、区分4に変更した。</p>	2	2	4	B2・C項目群、特記事項、医師意見書	98
区分5 事例1	<p>■四肢の麻痺に重度の知的障害を併せ持つ事例。</p> <p>■排尿排便や清潔保持等が全介助であることに加えて、ほぼ毎日ある不安定な行動や過食、てんかん発作の頻発等、介護により長い時間を要すると判断し、区分5に変更した。</p>	3	3	5	B2・C項目群	106
区分5 事例2	<p>■最重度の知的障害で、先天性甲状腺機能低下症、重積のてんかん発作がある事例。</p> <p>■頻回に他害、異食、自傷、危険な行動があり、行動障害、精神症状に関する介助項目が多く、介護の手間がかかると特記事項、医師意見書から判断し、区分5に変更した。</p>	4	4	5	特記事項 医師意見書 B2・C項目群	114
区分5 事例3	<p>■重度の知的障害で、周期性の興奮、不眠状態がある事例。</p> <p>■排便時に排泄物を壁になすりつけたり、葉を口に入れるなどの異食行為、奇声、暴行（母親の髪を引っ張る）、破衣等の行動障害がみられることから、これらに対応するため、介護時間が長くなると判断し、区分5に変更した。</p>	3	3	5	B2・C項目群	122
区分6 事例1	<p>■脳内出血による左片麻痺、視覚障害、高次脳機能障害の事例。</p> <p>■排尿排便時にも人に知らせることができず、清潔保持を含めて全介助の状態である。また、記憶障害、遂行機能障害、社会的行動障害があって、日常生活では全面的に要介護の状態であり、より長い介護時間を要すると判断し、区分6に変更した。</p>	5	5	6	C項目群 特記事項 医師意見書	129
区分6 事例2	<p>■聴覚障害、重度の知的障害によりコミュニケーションが十分にとれず精神的に不安定になることが多い事例。</p> <p>■このため、施設通所がほとんどできない。さらに、拒食（偏食）、興奮が頻回にあり、排尿排便のコントロールができず、おむつを着用するなど、日常生活において全面的に介護が必要なことから、介護時間が長くなると判断し、区分6に変更した。</p>	5	5	6	特記事項 医師意見書 B2・C項目群	137

## 区分2 事例1

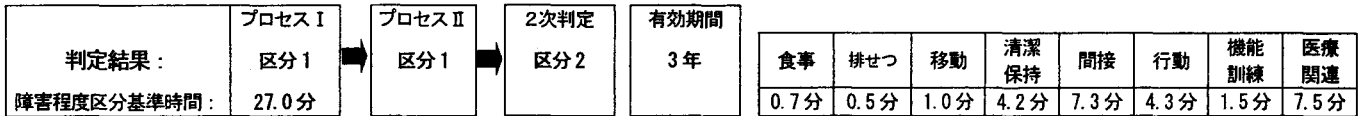
**区分変更:** 区分1 → 区分2

**有効期間:** 3年間

**審査及び判定の概要:**

- 統合失調症を発症し、強迫観念がある事例。
- 脅迫症状が強く家事等日常生活面で支障が生じており、同症状により行動がスムーズに行えず買い物や家中の清潔などに日常生活に関する支援に加え、強迫観念に伴う頻回の同様の行動への対応等介護に時間を要することを特記事項及び医師意見書から判断し、区分2に変更した。

1 一次判定等



2 判定調査項目

A項目群		調査結果	
<b>麻痺拘縮</b>			
1-1	麻痺 (左-上肢)		
	麻痺 (右-上肢)		
	麻痺 (左-下肢)		
	麻痺 (右-下肢)		
	麻痺 (その他)		
1-2	拘縮 (肩関節)		
	拘縮 (肘関節)		
	拘縮 (股関節)		
	拘縮 (膝関節)		
	拘縮 (足関節)		
<b>移動</b>			
2-1	寝返り		
2-2	起き上がり		
2-3	座位保持		
2-4	両足での立位		
2-5	歩行		
2-6	移乗		
2-7	移動		
<b>複雑動作</b>			
3-1	立ち上がり		
3-2	片足での立位		
3-3	洗身		
<b>特別介護</b>			
4-1ア.	じょくそう		
4-1イ.	皮膚疾患		
4-2	えん下		
4-3	食事摂取		
4-4	飲水		
4-5	排尿		
4-6	排便		
<b>身の回り</b>			
5-1ア.	口腔清潔		
5-1イ.	洗顔		
5-1ウ.	整髪		
5-1エ.	つめ切り		
5-2ア.	上衣の着脱		
5-2イ.	ズボン等の着脱		
5-3	薬の内服		一部介助
5-4	金銭の管理		一部介助
5-5	電話の利用		
5-6	日常の意思決定		
<b>意思疎通</b>			
6-1	視力		
6-2	聴力		
6-3ア	意思の伝達		ときどきできる
6-4ア	指示への反応		
6-5ア.	毎日の日課を理解		
6-5イ.	生年月日をいう		
6-5ウ.	短期記憶		
6-5エ.	自分の名前をいう		
6-5オ.	今の季節を理解		
6-5カ.	場所の理解		

行動		調査結果	
7ア	被害的		
7イ	作話		
7ウ	幻視幻聴		
7エ	感情が不安定		
7オ	昼夜逆転		ときどきある
7カ	暴言暴行		ある
7キ	同じ話をする		ときどきある
7ク	大声を出す		
7ケ	介護に抵抗		
7コ	常時の徘徊		
7サ	落ち着きなし		
7シ	外出して戻れない		
7ス	1人で出たがる		
7セ	取集癖		
7ソ	火の不始末		
7タ	物や衣類を壊す		
7チ	不潔行為		
7ツ	異食行動		
7テ	ひどい物忘れ		
<b>特別な医療</b>			
8-1	点滴の管理		
8-2	中心静脈栄養		
8-3	透析		
8-4	ストマの処置		
8-5	酸素療法		
8-6	レスピレーター		
8-7	気管切開の処置		
8-8	疼痛の看護		
8-9	経管栄養		
8-10	モニター測定		
8-11	じょくそうの処置		
8-12	カテーテル		

B1項目群		調査結果	
9-1	調理		
9-2	食事の配下膳		
9-3	掃除		
9-4	洗濯		
9-5	入浴の準備片付け		
9-6	買い物		
9-7	交通手段の利用		見守り、一部介助
<b>B2項目群</b>			
7ト	こだわり		ときどきある
7ナ	多動・行動停止		
7ニ	不安定な行動		
7ヌ	自ら叩く等の行為		
7ネ	他を叩く等の行為		週に1回以上
7ノ	興味等による行動		
7ハ	通常と違う声		
7ヒ	突発的行動		
7ホ	反復的行動		ときどきある
<b>C項目群</b>			
6-3-イ	独自の意思伝達		
6-4-イ	説明の理解		
7フ	過食、反すう等		
7ヘ	憂鬱で悲観的		ある
7マ	対人面の不安緊張		ある
7ミ	意欲が乏しい		ときどきある
7ム	話がまとまらない		ときどきある
7メ	集中力が続かない		
7モ	自己の過大評価		
7ヤ	疑い深く拒否的		ときどきある
9-8	文字の視覚的認識		

3 中間評価項目得点表

麻痺拘縮	移動	複雑動作	特別介護	身の回り	意思疎通	行動
100.0	100.0	99.9	100.0	87.3	94.4	90.7

IADL	行動障害
0.42点	1.02点

## 特記事項

### 1 麻痺等に関連する項目についての特記事項

#### 1-1 麻痺等の有無, 1-2 関節の動く範囲の制限の有無

(1-1) 日常生活に支障となる麻痺や筋力の低下は見られない。作業所に徒歩や自転車で一人で通っている。

(1-2) 上下肢とも自由に動かせ、支障はない。

### 2 移動等に関連する項目についての特記事項

#### 2-1 寝返り, 2-2 起き上がり, 2-3 座位保持, 2-4 両足での立位保持, 2-5 歩行, 2-6 移乗, 2-7 移動

(2-1, 2) つかまらず行える。

(2-3, 4) 支えなく保持できる。

(2-5) 作業所まで片道10分を雨の日は歩いて、晴れの日には自転車で通っている。

(2-6) 支障なく行える。

(2-7) 作業所は1人で通えているが、本屋には他人の視線が気になり1人で行けない。

### 3 動作等に関連する項目についての特記事項

#### 3-1 立ち上がり, 3-2 片足での立位保持, 3-3 洗身

(3-1, 2) 支障なく行える。

(3-3) 1日1回、1人でシャワー浴している。

### 4 身辺の介護等に関連する項目についての特記事項

#### 4-1 じょくそう(床ずれ)等の有無, 4-2 えん下, 4-3 食事摂取, 4-4 飲水, 4-5 排尿, 4-6 排便

(4-1) 皮膚疾患なし。

(4-2) 支障なくできる。

(4-3) 箸を使用し、1人で食べられる。作業所にはお弁当(冷凍食品)を持って行って食べている。

(4-4) 自分で飲みたい時に飲んでいる。

(4-5) 支障なくできる。

(4-6) 便秘あり。下剤を飲んでいて、1日1回排便がある。

### 5 身辺の世話等に関連する項目についての特記事項

#### 5-1 清潔, 5-2 衣服着脱, 5-3 薬の内服, 5-4 金銭の管理, 5-5 電話の利用, 5-6 日常の意思決定

(5-1) ア. 1. 流して1日2回(朝・夜)自分で行っている。

(5-1) エ. 手足とも自分で切っている。

(5-2) 支障なく行える。

(5-3) 4週間分もらってきた薬を1週間分ずつ母親にケースに分けて入れてもらっている。飲むのは自立。

(5-4) 年金の中から母親に月の小遣いをもらい、小額のみ自己管理している。

(5-5, 6) 作業所を休む時には自分で電話できる。

### 6 コミュニケーションに関連する項目についての特記事項

#### 6-1 視力, 6-2 聴力, 6-3-ア 意思の伝達, 6-3-イ 本人独自の表現方法, 6-4-ア 介護者の指示への反応, 6-4-イ 言葉以外の手段を用いた説明の理解, 6-5 記憶・理解

(6-1, 2) 日常生活に支障はない。

(6-3) 問いかけに対して答えられるが、自分が言ったことに対して他人がどう思うか等、先のことを考えてしまい、意思を伝達できないことがある。

(6-4) 特に支障はない。

(6-5) ア. 作業所には忘れずに通えている。

(6-5) 1. 即答できる。

(6-5) ウ. 「テレビを見ていた」と正答。

(6-5) エ. カ. 正確に答える。

(6-5) オ. 「〇月、春」と答える。

7 行動に関連する項目についての特記事項

7 行動 (ア～ヤまで)

(オ) 月1回くらい、朝方の1時間くらいしか眠れないことがある。

(カ、ネ) 週1回くらい、母親の腕を叩いて、翌日母親の手があがらなくなることがある。

(キ) こだわり、同じことを何度も言ったりする。

(ソ) 家の鍵を1箇所かければいいのに、2箇所かけないと気がすまない。使った時に何度も火を消したかどうか確認する。

(ト) いつものヘルパーでないと、気持ちが不安定になってしまう。

(ヘ) 「殺される」という不安があり、先週1週間、外が怖くて出られなかった。

8 医療に関連する項目についての特記事項

8 医療

( ) 医療は受けていない。

9 生活に関連する項目についての特記事項

9-1 調理, 9-2 配下膳, 9-3 掃除, 9-4 洗濯, 9-5 入浴準備, 9-6 買物, 9-7 交通手段, 9-8 文字の視覚的認識使用

(9-1) カレーの材料を買ってきて調理する。

(9-2) 料理の盛りつけ、配膳、下膳はする。食器洗いはやればできるが、母親の役割なのでやっていない。

(9-3) 自分の部屋は、週1～2回掃除機をかけている。布団も自分で干している。

(9-4) 1日1回洗濯機で洗濯している。

(9-5) 入浴はほとんどシャワー浴。風呂場の後片づけは父親の役割なのでやったことがない。

(9-6) 父親が網膜色素変性症による視力障害あり身障2級、母親が脊髄性小児麻痺による両下肢機能障害の身障1級のため、体調が良い時は、1日1回近所のスーパーに1人で買い物に行っている。他人の視線は気になるが、決められた物は買いに行くことができる。

(9-7) 他人の視線が気になることと、電車・バスなど乗り方が分からないので1人では乗れない。人が一斉に自分のことを見ていると思ってしまう。



### 医師意見書

記入日 平成 年 月 日

申請者	(ふりがな)	男 女	〒
	明・大・昭・平 年 月 日生( 歳)		
上記の申請者に関する意見は以下の通りです。 主治医として本意見書がサービス利用計画作成に利用されることに <input type="checkbox"/> 同意する。 <input type="checkbox"/> 同意しない。 医師氏名 _____ 医療機関名 _____ 電話 ( ) _____ 医療機関所在地 _____ FAX ( ) _____			
(1) 最終診察日	平成 年 月 日		
(2) 意見書作成回数	<input type="checkbox"/> 初回 <input checked="" type="checkbox"/> 2回目以上		
(3) 他科受診の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 (有の場合)→ <input type="checkbox"/> 内科 <input type="checkbox"/> 精神科 <input type="checkbox"/> 外科 <input type="checkbox"/> 整形外科 <input type="checkbox"/> 脳神経外科 <input type="checkbox"/> 皮膚科 <input type="checkbox"/> 泌尿器科 <input type="checkbox"/> 婦人科 <input type="checkbox"/> 眼科 <input type="checkbox"/> 耳鼻咽喉科 <input type="checkbox"/> リハビリテーション科 <input type="checkbox"/> 歯科 <input type="checkbox"/> その他 ( )		

#### 1. 傷病に関する意見

(1) 診断名 (障害の直接の原因となっている傷病名については1. に記入) 及び発症年月日			
1. 統合失調症	発症年月日	(昭和・平成) 4年 月 日頃)	
2. _____	発症年月日	(昭和・平成) 年 月 日頃)	
3. _____	発症年月日	(昭和・平成) 年 月 日頃)	
入院歴 (直近の入院歴を記入)			
1. 昭和・平成 7年 10月～ 7年 11月	(傷病名: 統合失調症)		
2. 昭和・平成 12年 12月～ 13年 6月	(傷病名: 統合失調症)		
(2) 症状としての安定性 <input type="checkbox"/> 安定 <input checked="" type="checkbox"/> 不安定 <input type="checkbox"/> 不明			
(「不安定」とした場合、具体的な状況を記入) 強迫症状、被害関係妄想、不安があり病感はあるが、病識はない。			
(3) 障害の直接の原因となっている傷病の経過及び投薬内容を含む治療内容 (精神疾患については、病状の不安定に関する所見も記載)			
中学校不登校。平成4年8月〇〇受診していたが、平成15年11月〇日当院に紹介になり初診。その後入院4回くり返し、平成13年6月〇日退院後は定期的に外来通院している。症状は強迫症状、被害関係妄想、対人関係疎通性の欠如、それによる不安感である。治療は薬物療法、精神療法を行っている。			

#### 2. 特別な医療 (現在、定期的に、あるいは頻回に受けている医療)

処置内容	<input type="checkbox"/> 点滴の管理	<input type="checkbox"/> 中心静脈栄養	<input type="checkbox"/> 透析	<input type="checkbox"/> ストーマの処置	<input type="checkbox"/> 酸素療法
	<input type="checkbox"/> レスピレーター	<input type="checkbox"/> 気管切開の処置	<input type="checkbox"/> 疼痛の看護	<input type="checkbox"/> 経管栄養 (胃ろう)	
	<input type="checkbox"/> 吸引処置 (回数 回/日, <input type="checkbox"/> 一時的 <input type="checkbox"/> 継続的)				
特別な対応	<input type="checkbox"/> モニター測定 (血圧、心拍、酸素飽和度等)		<input type="checkbox"/> 褥瘡の処置		
失禁への対応	<input type="checkbox"/> カテーテル (コンドームカテーテル、留置カテーテル 等)				

#### 3. 心身の状態に関する意見

(1) 行動上の障害の有無 (該当する項目全てチェック)	
<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	(有の場合) → <input type="checkbox"/> 昼夜逆転 <input type="checkbox"/> 暴言 <input type="checkbox"/> 暴行 <input type="checkbox"/> 介護への抵抗 <input type="checkbox"/> 徘徊
	<input type="checkbox"/> 火の不始末 <input type="checkbox"/> 不潔行為 <input type="checkbox"/> 異食 <input type="checkbox"/> 性的行動障害 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (強迫行為)
(2) 精神・神経症状の有無	
<input checked="" type="checkbox"/> 有 (症状名 統合失調症)	<input type="checkbox"/> 無
(有の場合) →	<input type="checkbox"/> せん妄 <input type="checkbox"/> 傾眠傾向 <input type="checkbox"/> 幻視・幻聴 <input checked="" type="checkbox"/> 妄想 <input type="checkbox"/> 失見当識 <input type="checkbox"/> 失認 <input type="checkbox"/> 失行
	<input type="checkbox"/> 認知障害 <input type="checkbox"/> 記憶障害 (短期、長期) <input type="checkbox"/> 注意障害 <input type="checkbox"/> 遂行機能障害 <input type="checkbox"/> 社会的行動障害
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 (強迫行為)
・ 専門医受診の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 (〇〇病院) <input type="checkbox"/> 無	

<てんかん>

有 無  
 (有の場合) → 頻度 (週1回以上 月1回以上 年1回以上)

(3) 身体の状態

利き腕 (右 左) 身長=155.3cm 体重=46.0kg (過去6ヶ月の体重の変化 増加 維持 減少)

四肢欠損 (部位: 程度: 軽 中 重)

麻痺

左上肢 (程度: 軽 中 重) 左下肢 (程度: 軽 中 重)

右上肢 (程度: 軽 中 重) 右下肢 (程度: 軽 中 重)

その他 (部位: 程度: 軽 中 重)

筋力の低下 (部位: \_\_\_\_\_ 程度: 軽 中 重)

関節の拘縮

肩関節 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

股関節 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

肘関節 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

膝関節 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

その他 (部位: \_\_\_\_\_)

関節の痛み (部位: \_\_\_\_\_ 程度: 軽 中 重)

失調・不随意運動・上肢 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

・体幹 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

・下肢 右 (程度: 軽 中 重) 左 (程度: 軽 中 重)

褥瘡 (部位: \_\_\_\_\_ 程度: 軽 中 重)

その他の皮膚疾患 (部位: \_\_\_\_\_ 程度: 軽 中 重)

4. サービス利用に関する意見

(1) 現在、発生の可能性が高い病態とその対処方針

尿失禁 転倒・骨折 徘徊 褥瘡 嚥下性肺炎 腸閉塞 易感染性  
心肺機能の低下 痛み 脱水 その他 ( \_\_\_\_\_ )  
 → 対処方針 ( \_\_\_\_\_ )

(2) 介護サービス(ホームヘルプサービス等)の利用時に関する医学的観点からの留意事項

・血圧について 特になし あり ( \_\_\_\_\_ )  
 ・嚥下について 特になし あり ( \_\_\_\_\_ )  
 ・摂食について 特になし あり ( \_\_\_\_\_ )  
 ・移動について 特になし あり ( \_\_\_\_\_ )  
 ・その他 ( \_\_\_\_\_ )

(3) 感染症の有無(有の場合は具体的に記入して下さい)

有 ( \_\_\_\_\_ ) 無 不明

5. その他特記すべき事項

障害程度区分認定やサービス利用計画作成に必要な医学的など意見等をご記載して下さい。なお、専門医等に別途意見を求めた場合はその内容、結果も記載して下さい。(情報提供書や身体障害者申請診断書の写し等を添付して頂いても結構です。)

強迫症状による行動。被害的に常に他者にどう思われているかを気にしている。何度も財布の中を確認し、ドアノブにも触れず、また、今どう思っているか他者に確認したくなる。金銭感覚は乏しく、計算能力も欠けている。家中ではどうにか生活出来るが、買物などは他者が気になり、また強迫行為があり、スムーズに行動できない。両親と同居しているが、両親とも病弱なため、買物の手助けや家中の清潔に援助してもらいたい。

<精神障害の機能評価>

○精神症状・能力障害二軸評価:(精神症状; 4 能力障害; 3 ) (判定時期 平成〇年〇月)  
 ○生活障害評価:(食事; 3 生活リズム; 2 保清; 2 金銭管理; 4 服薬管理; 2  
 対人関係; 4 社会的適応を妨げる行動; 1 ) (判断時期 平成〇年〇月)